成人向け
FOR ADULT ONLY

黒猫らいおんはーと

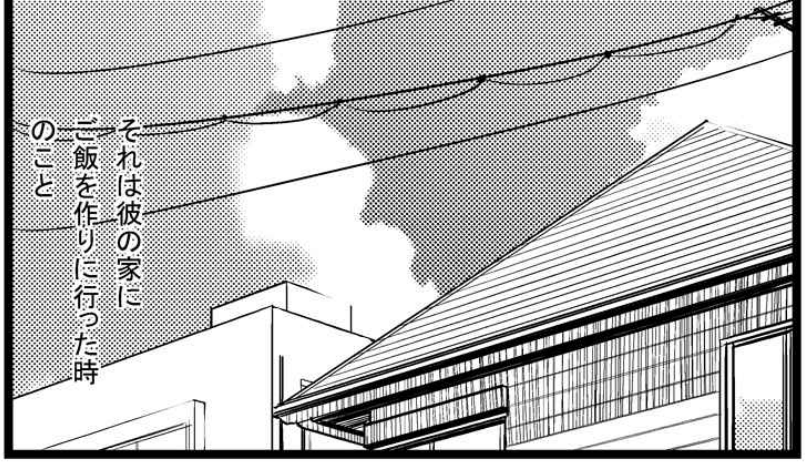
KURONEKO LION HEART

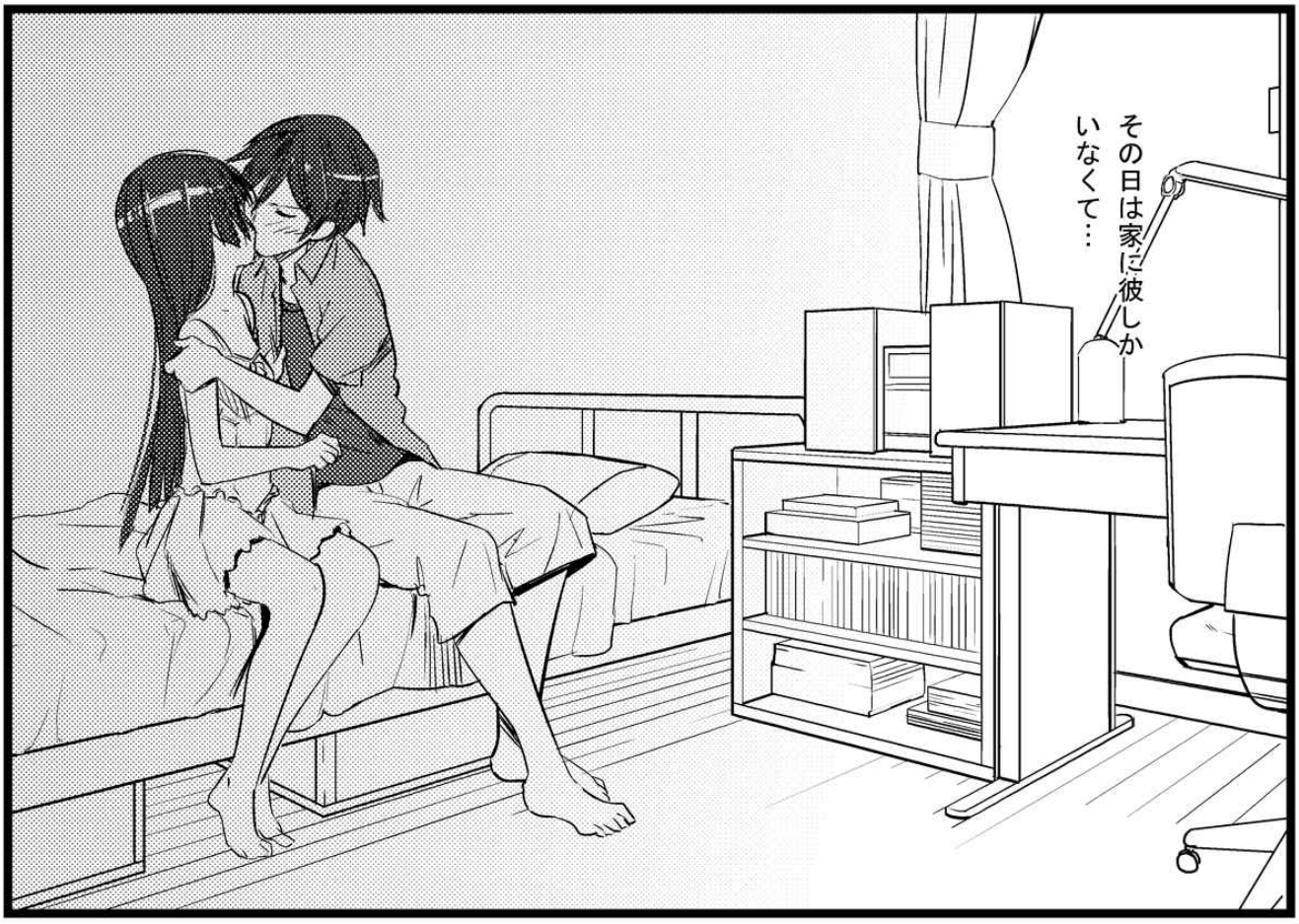
かつての人間としての私は
自分でも嫌になるくらい臆病な存在で
失うことばかり恐れ他人を拒絶し
友達を作るどころか人を好きになることさえ想像できなかった

そんな私が傷つくことを恐れず
前に進む勇気を手に入れられたのは
きっと彼のおかげ

そして彼女のおかげ

…だから私は全力をつくすわ
でなければふたりに与えられたものが嘘になってしまうから


それは彼の家にご飯を作りに行った時のこと

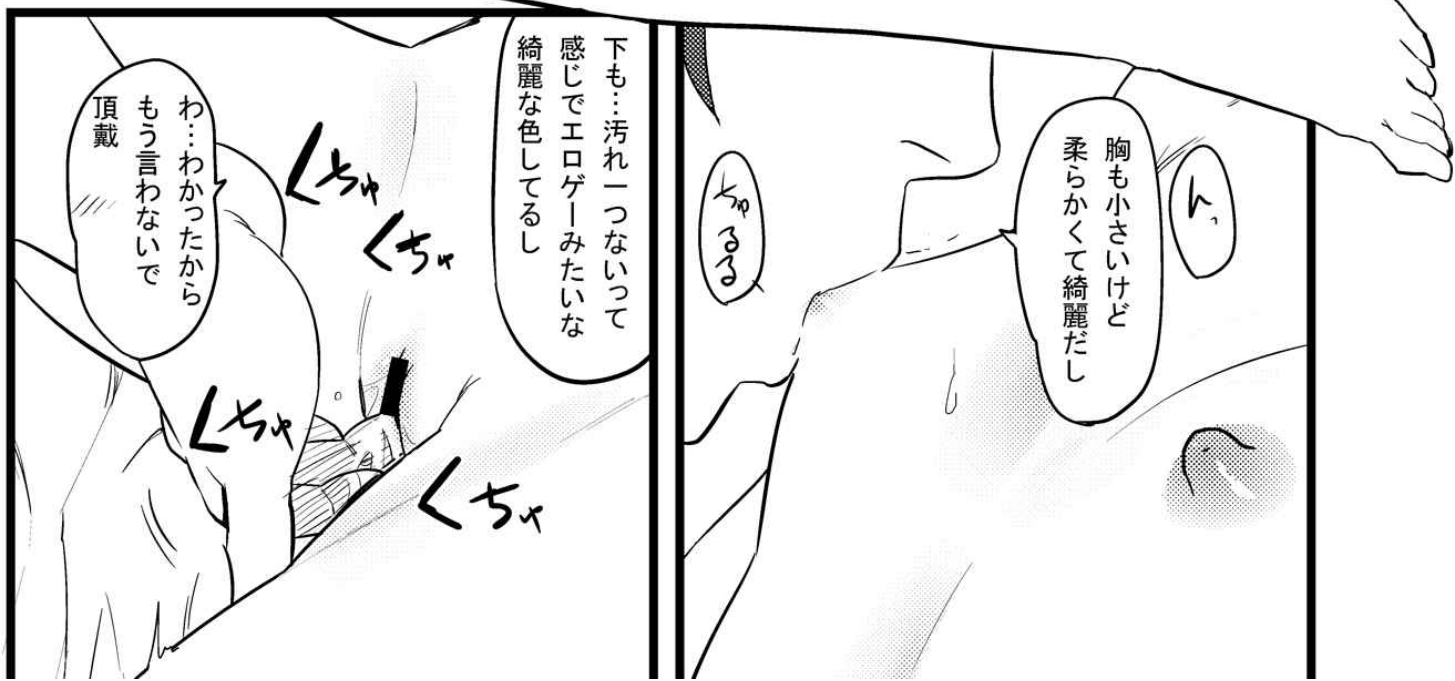

その日は家に彼しかいなくて…

……く、黒猫っ！その…し、してもいいんだよな？
この流れは

え…？するってああの…そその……～～っ
はっはは、破廉恥な雄ねまったく…っ

……あ、あなたが…どうしてもと言うなら…そのし、してあげても…いいわ

ちゃ♡
黒猫の裸…やばいな
すげえ可愛い
ちゃ
はぁ♡
…こ、こどもっぽい
体型だとでも
言いたいのかしら？
ちゃく
ちゃく
変な風に解釈すんなよ
目茶苦茶興奮してんだからさ
むにゅん
信じらんねえ位
肌白くて滑らかだし



黒猫の…すげえ濡れてきた…
クプ
ネチュ…
決して途中でやめないと約束して頂戴
……わたしがどんなに痛がったとしても…必ず最後までして
えっと…そろそろいいか…？
い…いいと思うわ
ドキ
ドキ
ガサ
ゴソ
だけど…一つだけお願いがあるわ
お願い？
……もしやめてしまったら
きっと私はまた臆病な人間にもどってしまうから…
…け、けどなるべく痛くないようになさい
お、おう…わかったぜ
…よくわからんが

そ、それじゃ挿れるぞっ

ドキ

ドキ

ヌニ

ヌニ

うわ…っぬるっとする

ズキ

クズ

…っ

ズ

ブチ

ブチ

ブチ

痛っ……！

ヌ

ヌ

ヌ

ヌ

つくう

は…入った

ズクン

ズクン

黒猫…大丈夫か？

だ…大丈夫よ続けて頂戴…

けど…つらそうだぞ？

…そうね痛いわ呪い殺したくなるくらいに

え…？

普段の私ならね…けど今の私にはこの程度の痛み…恐れるにたらないわ

貴方を受け入れることができたことの方がずっと大きいからねきっと…

自分が人の身であったことがこんなに嬉しかったことはなかったわ

く…黒猫っ

すまんっもう我慢できねえ！

ゴク

ズ

きゃっ

ふぅ
なぁ

すまん…
もう気持ちよすぎて
抑えらんねえ

黒猫…っ
黒猫のあそこ
吸い付いてきて
私も…先輩の
猛りを感じるわ
熱くてぬるぬるで
目茶苦茶気持ちいい
は
なぁ

…いいのっ
もっと貴方を
感じさせて頂戴
もっと私で気持ち
よくなって頂戴…
は
はぁ

先…輩
先輩…っ
黒猫…っ
俺もう…っ
黒猫♡
んん〜

黒猫らいおんはーと

KURONEKO LION HEART

黒猫にゃんにゃん

エロい小説やら絵やら描いたりしてるわりに黒猫は恥ずかしがり屋で実際のHには奥手だったりする…まあそんなとこも可愛いんだけどな！

フィ…フィクションと現実は違うのよ！破廉恥な雄ね！

うーんお前に言われたくはないぞ

だけど健全な高校生は常に発情期のようなものこのままじゃ駄目だ！

よし黒猫！Hが恥ずかしくなくなるいい方法を思いついたぜ！

…なんだか全然いい予感がしないのだけれど

そのポーズは何？

なりきりH！つまりはイメージプレイだ！

…え？

コスプレとかしてキャラになりきっちまえばきっとお前の場合上手くいくと思うんだ！

え…そんなの余計に恥ずかしいと思うのだけれど…

大丈夫だってさあさあ！

ちょっと…

自主規制

「よ…っ、よくぞここまで
辿りついたわね…。し…し漆黒っ」
「…声上ずってるぞ黒猫」
「あ、当たり前じゃない。
マスケラのシチュエーションで
エ、エッチだなんて…」
「マスケラがいいって言ったのそっちだろ…」
「強いて言えばってだけで……
別にその私がしたいというわけでは…」
「まぁまぁ一緒にグラビア撮ったときはほら
上手くいったじゃないか」
「それとこれとは全然違うわよ！
……自分の漆黒コスの魔力を少しは自覚しなさいよ…もう…」
「ん？今なんて？」
「なんでもないわ…し、漆黒」
夜魔の女王（クイーン・オブ・ナイトメア）
と 漆黒
「ふふふ…所詮は人間であるお前が
この快感に抗うことなどできはしない。
あきらめて私の物になりなさい漆黒」
「く…俺は絶対に屈しないぞ夜魔の女王！」
「強がるわりにもうこっちは硬くなっているわよ？
さあ天使をも堕とす魔の快楽にお前が
どこまで抗えるか楽しませてもらうわ」
ぐりぐり…きゅっ
「くっ…あ、足でだと…」
「足でされているのに感じているというの？」
「た…ただたどしい動きとストッキングの感触がっ」
ビクンビクン
「ふふふ脈打っているのがわかるわ。
こんどは両足ではさんで擦ってあげる。
さあもっともっと感じなさい！」
「うう…綺麗な足に押しつぶされて…」
「いいわその声。もっと泣いて頂戴。
痛みさえ快楽へと変わるのはどうかしら？」
ぬぢゅっぬぢゅっ…
「あら…なんだかヌルヌルしたものが足に
まとわりついてきたわ」

「はぁはぁ…もう果ててしまいそうなのね漆黒。
かわいいわ……ぱんぱんに張り詰めて
いいわそのまま堕ちてしまいなさい」
ぬぢゅっぬじゅっ♥
「先走りを塗りたくるように足の指が
絡みついてだめだ…もう抗えない」
「ああ…漆黒♥私の漆黒♥」
びゅくん！びゅるる…びゅるっ
「ああ…なんて熱くて純度の高い
生命の源なの…」
「…ふぅ。黒猫途中からノリノリだったな
オナニーもしてたし」
「…お願いだから言わないで頂戴…」
ゾク
ゾクゾク
はぁ
はぁ♥
ちゅ♥
ドピュ
ルルル
ぬぢゅ
ぬぢゅ

猫耳妹メイド と 兄さん

「お帰りなさいませご主人様！」

「違うぞ黒猫！」
「え…？」
「俺のことは兄さんと呼べ！あのときみたいに」
「あのときって…あれ気に入ってたの？全く本当にシスコンね
いいわ…今日はなんでも言うことを聞いてあげるわ…兄さん♪」
「う…！」
「ふふ…どうしたの？遠慮しなくていいのよ？
妹にメイドプレイさせる破廉恥な兄さん」
「お、おう…」

「じゃあ黒猫。俺のにご奉仕して気持ちよくしてくれ」
「ご、ご奉仕ってつまりく、口に入れたりするってことよね……？」
「まあイメージ的にはそうだな。いやか？」
「……いいわ。今日は兄さんのメイドだから…その口でしてあげるわ」
「よし！じゃあ頼むぜ黒猫」
「うう…なんでもう大きくしてるのよ。…じゃあするわ」

……ちゅっ♥
「おおう!?」
「な、何よ…?」
「いやなんか…感動した」
「…ふふ。キスくらいで馬鹿な兄さんね。じゃあもっとしてあげるわ」
ちゅっちゅっ♥
「キスのたびにピくッピくッってなるのはなんだかかわいいわね」
ちゅっちゅぷ♥
「ふふ、じゃあ次はぺろぺろしてあげるわ」
ちゅぷる♥ぴちゃぴちゃ♥れろん♥
「うわ…黒猫の舌…ヌルヌルで…気持ちいいぜ」
「ん…もっと感じて頂戴」
ちゅる♥れろれろれろれろ♥
「どこが…れろっ…感じるのかしら…ちゅる…裏筋?…それともちゅぷっ…先っぽの方かしら?」
れろれろれろれろ♥
「ちゅる…先っぽからぬるぬるが出てきたわよ…ちゅる…これが精液の味なのね…ちゅる」
ちゅるちゅる♥
「黒猫…そろそろくわえてみてくれよ」
「…ちゅぷっ…こんな厭らしいものをくわえろですって?まったく破廉恥な兄さんね。……口の中に入りきるかしら……」
かぷ…
「うわ……黒猫の口の中あったけー」
「んんっ…ちゅぷぷぷぷ」
「そうそう歯は立てないようにな…無理するなよ。入るとこまでいいからな……そっから口で前後に扱けるか?」
ずる…じゅるるる
「ぷ…はぁ…ひひは…ん」
ちゅぷぷぷぷ…
「うわ唾液たくさん出てるな……チンポそんなにおいしいか?…っ!冗談だって。噛み付くなよ…。よしよしじゃあ慣れてきたら舌を絡ませたりして段々早くしてみてくれ」
「ん…っぷ…」
ぢゅるる♥ちゅぱ♥ぢゅるる♥ちゅぱ♥ぢゅ♥
「んちゅ…んふぅ」

「くうぅやべぇえ！上目遣いで奉仕する
黒猫可愛すぎるぜ！もう出ちまいそうだ」
「…んっ」
ぢゅぱぢゅぱぢゅぱぢゅぱっ♥
「くうイクぞ…口の中に出すからな！
妹メイドの口に出しちまうからな！
全部受け止めるんだぞ！」
ぢゅぷぢゅぷぢゅるるるるっ！
「くううううっ」
びゅるるるっどぷっ
「んんん――――っ」
びゅくっびゅるるっ…ドク…ドクン…
「ああ黒猫の口の中で出せるなんて…」
「……んぷ…こくん」
「おっおい黒猫……
お前飲んでくれるのか？」
「ふ…ん…こく…こく…
ちゅる…ちゅるる…ごく…」
「うお…奥に残っている
のまで吸い出して」
「ぢゅるるるるっぢゅうううう
…ぱ…ふぁっ…ご奉仕なら
飲むものでしょ……」
「黒猫…お前…ありがとよ」
「き、今日だけよ兄さん。
勘違いしないで
…それにしてもまだ喉に
からんで飲みにくくて
苦くて……って
あなたの全然硬いままなの
だけれど……」
「おいおいこの状況で一発で
終わるわけないだろ」
「…しょうがない雄ね…
じゃあもう少しご奉仕して
あげるわ…兄さん♪」

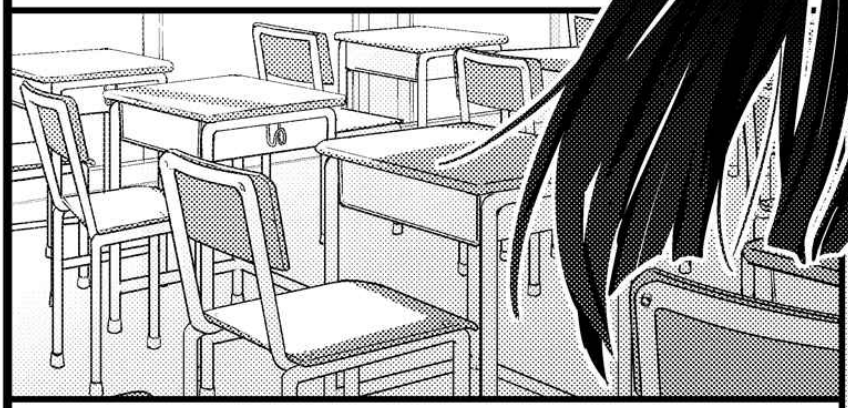
スク水
とエロコーチ
「コ、コーチ…本当に
これっきりなんですよね？
あの写真返してくれるんですよね？」
「ああ五更。約束は守るから安心しな」
「うう…あのお願いですから…
初めては許してくれませんか？」
「更衣室でオナニーしていたくせに
処女だっていうのか…仕方ねえな
今回は本番は許してやらあ…今回はな」
「っぷ……ふふふ。あなたこういう
チンケな悪党役が妙にはまるわね」
「……いきなり素に戻るなよ」
「お前は体つきは子どもっぽいくせに
やたらとエロいケツしてるよなぁ」
「うう…人が気にしていることを……呪うわよ」
「だから素に戻るなって……
にしてもこのケツたまんねえぜ。最高のケツだ…
処女は許してやるんだせめてこっちは自由に
させてもらうぜ」
ウイ
むにゅう。

「ち、ちょっとまさかお尻に入れたりはしないわよね!?」
「おいおいさすがにそこまではしねえよ……
ま、お前の態度しだいだがな」
「く……」
「じゃあさっそくこのケツを揉みしだいてやるぜ」
ムニニニ…むにゅっむにゅっ
「や…ちょっと…」
「揉みごたえのあるケツだ…ちょっと待ってろヌルヌルにしてやる」
「え…?きゃっ冷たい…何?」
「ただオイルだ。ほら揉みこんでやる」
にゅるにゅるにゅぷんぬちょ♥
「や…水着の中まで」
「じゃあそろそろ俺も楽しませてもらおうか。ほら壁に手をついて可愛いケツをこっちに突き出せ」
「うう…こうでいいのかしら?」
「よし……ケツでチンポを挟んで扱きあげてくれ」
「お願いだからケツケツ連呼しないで頂戴…もうっ」
ぬぢゅ
ぬちゃ
ぬん
ぶちゃ
ぢゅ
ぎゅうう
くん

にゅぷっにゅぷっにゅぷっぬぶん！
「はぁはぁ…お前のケツこき最高だぜ…お前はどうだ？
初めてのチンポの感触」
「っそんなの…気持ち悪いだけよ…っ」
にゅぐっにゅぐっぷちゅんっじゅぷりゅ
「その割りに声が上ずってるぜ？このエロ女子高生が…
ほら早く動くからお前もチンポを押さえろ」
「なんでそんなものを…私が触らなきゃいけないのよ」
「いいんだぜ別に…代わりにその水着ん中に
チンポぶち込むからよ」
「わ、わかったわよ…こ、こうでいいの？」
「そうそう…いい子だ。よししっかり押さえてろよ」
じゅぱんっじゅぱんっぬぢゅんぬぢゅん！
「はぁはぁ…こ、こんなの何が楽しいというのこの変態…
あなたみたいなのが教育者だなんて…」
ぬぢゅぬぢゅぬぱぁんぬぱぁんっ♥
「いくぞっ…お前の綺麗な桃尻を汚してやる！」
「うぅ……手とお尻の間で汚らわしいものが震えて
張り詰めて…っ……きゃっ」
びゅくんっびゅううっびちゃびちゃ…
「ふう…たまんねぇ」
「はぁはぁ…うう……
汚されちゃった……」
ぬりゅぬりゅぬちゅる
「ちょっと…精液をお尻に
塗りたくらないで
頂戴……あんっ」
「……もう洗うの大変なのに
こんなにかけるなんて…」
べっちゃ

女子高生と盛りのついた恋人

「現役女子高生の制服姿はコスプレに入らないと思うのだけれど…」
「チッチッチ。わかってないな黒猫。徐々に普通のシチュに戻していかないとコスプレしないとHできなくなっちゃうだろ？」
「それは一体どういう理屈なのよ」
「まあ心配すんなって。ちゃんとシチュは用意してあるからさ」
「…そんな心配は誰もしてないのだけれど」
「よしじゃあ今日は俺とお前は下の名前で呼び合う恋人だ」
「下の名前って…えっと…」
「さあ呼んでみてくれよ…瑠璃」
「――――」
「ほらお前も呼んでくれよ瑠璃」
「あの…その…き、きき…京介」
「よし瑠璃…ちょっと移動するぜ」
「移動…ってどこに行くの？き…京介…？」



「ちょっと…もしかしてこんなとこでするつもり？」
「大丈夫だって…休みにこんな隅の教室だれもこねえよ瑠璃」
「駄目よ先輩…！こんなところで…できるはずないじゃないっ」
「おいおい瑠璃…ちゅっ…先輩じゃないだろ？それにもう俺のハイパー兵器は準備万端なんだよ」
「駄目よっ…やブラ外さないで…」
「ちゅっちゅぷ…いいだろ？もう我慢できなねえよ」
「やあ…駄目だったらき…き、京介っ…やっパンティ脱がさないで……っ」
「でもこっちは少し湿ってるじゃんか」
「それは…あっ汗よ」
「嘘付け。どんどんヌルヌルしたの出てきたぞ」
にゅぷ…ちゅくちゅくちゅくちゅぽぉ♥
「や…指でかき混ぜないでちょうだ…いっ…いや…音しちゃう」
「もう挿れちまうぞ」
ごそごそ…ぬちゅ♥
「や…駄目…よ…」
「ほらそんなこと言ってもこっちは素直に飲み込んでいくぞ」
ぬぷぷぷ♥
「やぁ…本当に入ってきた…っ。…あんっ…京介の…熱いの本当に入れる…あっ…なんて…こんな場所でしちゃ駄目なのに…はぁはぁ…やんっ」

「つや…あっあっんん…っ…ん～～～っ」
「おいおい瑠璃…そんな声だしていいのかよ？
誰か来ちゃうかもしれないぜ？」
「そっそんな」と……っ…しょうがない…でしょ…あなたが
激しく動くから…ん…っ～～～」
「でもいつもより興奮してるだろ？
膣内がいつもより締め付けてくるぜ」
「そんなの…気のせいよ…っ…やんっ
もう…わかったから早く出して…あんっ終わらせて頂戴」
「じゃあもっと激しくするから声抑えてろよ？」
「…っあ…～～～～っ」
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
ぎゅ♥

「だめだめっ…奥を突かないで……！ひゃうっ」
「はぁ…はぁ…さっきからイきっぱなしだな？
何だかんだ言っても吹っ切れちまえば感度いいよな」
じゅぷんっじゅぱんっじゅぱんっぷぱんっ♥
「そんなの…知らないわよ…っ…あんっ子宮をごりごり
押し上げないで…頂戴っ…声出ちゃうから…っ
おっきいの来ちゃうから…！」
「俺もイきそうだからこのまま一気にいくぞ！」
じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷっ♥
「だめ…快楽におぼれて…しまう…っ…ああイクッ…イクイクイクぅ♥
京介…っ！」
「瑠璃…！好きだっ！一緒に…っ出る！」
「きょう…すけっ♥」
びゅくん!!びゅるっびゅううぴゅ♥ぷしゅううう♥
「おお…これもしかして潮吹きってやつか……こんなの
初めてじゃないか？黒猫よっぽどこのプレイが気に入ったのか？」
「はぁ…はぁ…はぁ…だってあなたが人間としての名前で…その
す、好きだなんて言うから……」
「ふぅん…？じゃあ今度からはエッチの時は言うようにするかな」
「そんなことされたら……自分から求めてしまうじゃない……」
ぎゅ
ぴゅ♥
にゅぽぉ

その後…
そんなこんなで今では黒猫からさりげなく誘ってくれるくらいにまでなったんだが……
ちゅ♡ちゅる♡
ちゅうう
すり
すり
「もう…赤ちゃんみたいよ？こんな小さい胸別に吸っても楽しくないでしょ？」
「ちゅるる♥っぷ……お前の胸小さいけどすげぇ綺麗でかわいくて好きだぜ？ちゅるる…まあお前の胸だったらどんな胸でも好きなんだけどな瑠璃♥ちゅぷぷ」
「え…？な、なによもう……」
「ふふ…今更照れんなよ」
「照れてなんか……いないわよ…もう……
……き、京介…私もその…す、好きよ」

ぱんっぱんっぱんっぱんっぱんっ
「やっあんっあっ…貴方の逞しいの……気持ちいいっ♥」
「……たくHに積極的になったのはいいけど
これじゃまるで盛りがついたメス猫だな♥」
「わ…私はそんなに…Hじゃ…ないわよ」
「何言ってんだよ最近はこっちでも感じれるようになったくせに」
ぬぽぬぽっ♥
「あ…やぁ…っ……貴方が…開発したんじゃないっ…やあ
一緒に動かしちゃだめぇっ」
「くぅぅ！エロい黒猫もかわいいなあ♥」
どちゅどちゅどちゅどちゅ♥
「あっあっあっ♥…もう私をこんな体にしたのだから…
離れることはゆるさないわよっ…
ああもう…だめぇっ……イックぅぅ！」
ぴくっ
ぴくっ
はぁ
はぁ
ぶるぶる

オマケ
だめっもう…お尻もうお尻駄目なのっ…これ以上されたら…
ハァ
ハァ
ふっ
ふっ
お尻で…イク…！アナルセックスで…堕ちて…しまうわ…！
ビクッ
ズンッ
ズポ♥
ズポ♥
ズポ♥

ボツ絵コーナー

いつもたくさんのボツがうまれます・・・

…はあ
……大丈夫
初デートごとき
簡単なことよ
ドキ
ドキ
あの女にだって
出来たことだもの
私ほどの魔力なら
この程度のこと
たやすいものよ
そう我は
千葉の堕天使
黒猫…
宵闇の加護を受けた
あの日から…
黒猫
何やってんだ？
あ…あら？
早かったじゃない
お前の方こそ
もしかして待ったか？
わ…私も来た
ばかりよ
…ホントは十分前には
着いてたけれど

……黒猫
本当にいいんだよな？

い、いい…って
言ってるじゃない

…それともあなたが
臆したのかしら？
人ならざる私と
契りを交わすことに

…言うじゃねえか

途中でやめてって言っても
もう止めねえぞきっと

だ、だけどその…

その…陽光のもとには
この肉体(からだ)を晒すことはできないのよ…

私は宵闇の籠を
うけた身だから

だからその…
部屋を暗く…して頂戴

■あとがき

はじめまして、こんにちは〜、アジサイデンデンです。
まず始めに、お手にとって頂きありがとうございます！

前回は桐乃本だったので、今回は黒猫本にしてみました。

が、、黒猫が何度描いても似ない・・・。
当初は黒猫エロイラスト集+おまけ漫画本にしようと思ったんですが
イラスト集があんまりエロくない！時間の都合上漫画も中途半端！
36Pにしたほうが印刷代が安いので、無理やり36Pにしたら手抜きなページが多い！

でも！表紙はうまくいきました！(`・ω・´)

・・・本当に表紙詐欺です、、ごめんなさい....ごめんなさい.....!(ω・`)
次は頑張りますのでご勘弁下さい。

はてさて、次回のイベントは、2月20日（日）「スーパーヒロインタイム２０１１春」
内、俺妹オンリーイベント「妹恋しよっ！」に参加します。

では、また機会がありましたらどうぞよろしくお願いします。

■おくづけ

「黒猫らいおんはーと」

発行日：2011.2.6　サンシャインクリエイション 50
印刷所：ねこのしっぽ様
発行：アジサイデンデン
HP:http://ajisaidenden.x.fc2.com/
EMAIL:ajisaidenden@gmail.com

□18 歳未満の閲覧・譲渡禁止
□無断転載・無断複製禁止
□WEB へのアップロード及び公開の禁止
□乱丁、落丁は非常に「レア」です。
友達に自慢するか、ニヤニヤして下さい。
□ご意見、ご感想お待ちしております。

アジサイデンデン